

令和 6 年 9 月 6 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01961

研究課題名（和文）次世代の自動車流通経路戦略

研究課題名（英文）International Comparison Study of Automotive Franchise System

研究代表者

塩地 洋（Shioji, Hiromi）

同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員

研究者番号：60215944

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：総じて「研究実施計画」に沿って、自動車流通の国際比較に関する取材と資料収集を進め、著書4(分担執筆2,共編2),論文2,研究報告18という成果をあげた。取材調査としては、2019年8月に中国の広州において電気自動車および車載電池製造・開発に関する調査した。これは論文(「中国電動用2次電池のバリューチェーンにおける企業間関係―日系及び中国企業の実地調査から」『アジア経営研究』第28号,2022年8月)に上梓した。

これらの著書や論文、研究報告を通じて、韓国の自動車流通の特徴を他国との比較の観点から明らかにした。また太平洋島嶼国における放置車両の現状とその解決の方向性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

太平洋島嶼国車両放置問題の解決策について基本的方向と具体的な提案を行なった。その基本的方向は、自動車リサイクル困難国に対して、リサイクルの自立的完結を求めることをしないで、島嶼国に対して自動車を輸出した国(政府)と輸出会社が持ち込み責任をとるという観点から国際協力/支援の一環として島嶼国の自動車リサイクル事業の国際分業を構築することを提案した。すなわちその国では自動車リサイクルが困難であることを知りながら、あえてその国に自動車を持ち込んだ者は、持込責任を果たすべきであり、島嶼国における自動車リサイクルへの協力/支援、あるいはリサイクルのプロセスの一部を自国で行なうべきであると提案した。

研究成果の概要（英文）：Main research result is that we have achieved field investigations mainly in the area of Pacific Island countries such as Papua New Guinea, Solomon Islands, Federal of Micronesia and Marshall Islands in order to solve the abundant automobile problem in such areas.

As a result we could publish 4 books and 2 articles making 19 presentations. In this research result, we could clarify the cause of the abundant automobile and the solution of its problem.

Our basic principle of its solution is to make the companies/countries who export the vecles into the area bear the liability of recycling the vehecles partly.

研究分野：自動車産業論

キーワード：自動車流通 自動車流通経路の国際比較 自動車リサイクル

## 研究成果報告

### 1. 研究開始当初の背景

2019年4月より自動車流通の国際比較の文献研究を開始した。しかしながら2020年2月より新型コロナウイルスの感染拡大のために、海外取材ができなくなり、「研究実施計画」に沿った現地取材はほぼ3年間、中断を余儀なくされた。そのためその後米国および欧州での現地調査は断念し、太平洋島嶼国における車両放置問題の解明に重点を絞り込むこととした。

### 2. 研究の目的

太平洋島嶼国における車両放置問題とは、太平洋島嶼国(14カ国)に対して日本から輸出された自動車(主として中古車)が、現地で10~15年程度使用された後に廃車(使用済車)となるが、その車両の解体/リサイクルのプロセスが現地で適切に行なわれ得ないために、廃車のまま、あるいは部品が取り出された廃車ガラ(車体の外板のみ残った状態)のまま、14カ国で推定数十万台程度放置されている。かかる問題をいかに解決するのか、その方向性を明らかにすることが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

この問題に対して筆者は2016年12月にフィジー共和国(主にナンディ、スバ)およびトンガ王国(ヌクアロファ)、サモア独立国(アピア)で調査を開始して以降、2018年2月には二度目のフィジー調査を行ない、それらの調査を踏まえて二つの論考、既論文[1](塩地「太平洋島嶼国の車両放置問題解決のために 車両放置が発生する原因解明を中心に」『産業学会研究年報』(産業学会)第33号、2018年)と既論文[2](塩地「太平洋島嶼国の車両放置問題解決のために 解体事業の採算性の改善を中心に」『アジア経営研究』(アジア経営学会)第24巻、2018年)を上梓した。既論文[1]では車両放置問題が生じる原因について多面的な分析を行なった。この問題が生じる原因は、自動車リサイクルにおいて島嶼国が抱える三つのハンディキャップ、狭小性、遠隔性、分散性が主たる要因となり、自動車解体ビジネス(解体工場経営)に大きな困難が存在することであった。そして、そうした社会的経済的地理的な複合要因によって自動車リサイクル事業を成り立たせることが技術的にも経営的にも困難な国を、「自動車リサイクル困難国」と規定した。このような明確な問題意識をもった規定は従来の研究では見られない。自動車リサイクル困難国においては当該国が自立的に努力しても、自動車リサイクル事業は経済的に採算がとれない故に、事業の停滞や縮小、あるいは撤退が避けられなくなる。そうした中で放置車両が増大している。こうした太平洋島嶼国における放置車両問題を解決する基本的方向と具体解決策を探ることが本研究の目的である。

### 4. 研究成果

「研究実施計画」(研究期間は、当初2019年4月~2022年3月の3年間であったが、2020年1月に起こったコロナ禍のため2024年3月まで2年間延長された。この研究実施計画に沿って、自動車流通の国際比較及び太平洋島嶼国における放置車両問題に関する取材調査と資料収集を進め、それらの取材と資料の分析に基づいて、著書4(分担執筆2、共編2)、論文1、研究報告19という研究業績・成果をあげた。以下は研究業績(2019年4月~2024年3月)のリストである。これらの研究成果の中では、重点を太平洋島嶼国における放置車両問題に絞り、当該問題の解決策が詳細に検討されている。

#### 4 - (1) 著書

- ・東アジア優位産業 - 多元化する国際生産ネットワークス -  
共編著(分担執筆) 2020年3月 中央経済社 おわりに(263~265頁)
- ・ASEANにおける日系企業のダイナミクス  
共編著(分担執筆) 2020年10月 晃洋書房  
序章 2 本章の問題意識 自動車産業政策の類型から見たASEAN各国の特徴(6~10頁)  
2章 ASEAN統合の進展と日系自動車企業の生産拠点再編(39~57頁)
- ・Management for Sustainable and Inclusive Development in a Transforming Asia  
共編 2021年1月 Springer Preface( ~ 頁)
- ・Knowledge Transformation and Innovation in Global Society  
共編 2024年3月 Springer Preface( ~ 頁)

#### 4 - (2) 論文

- ・中国電動用2次電池のバリューチェーンにおける企業間関係 日系及び中国企業の実地調査から  
李在鎬等と共著 )2022年8月 『アジア経営研究』第28号 (91~104頁)
- ・車両放置問題に関する太平洋島嶼国間の類型比較  
単著 2024年3月 『同志社商学』第75巻第6号 (1~14頁)

#### 4 - (3) 研究報告

- ・太平洋島嶼国の放置車両問題 - フィジー, トンガ, サモアの調査から -  
2019年9月 (2)日本経営学会(於関西大学)
- ・1970年代~2000代のトヨタ自動車の中国事業 - 元トヨタ自動車中国事務所総代表服部悦雄氏  
口述記録に基づく分析 -  
2019年9月 経営史学会全国大会(於小樽商科大学)
- ・パラオにおける自動車解体と金属スクラップ輸出 - 放置車両問題の解決のために -  
2019年10月 日本流通学会全国大会(於明治大学)
- ・中古車輸出を考える  
2019年10月 中国汽流通協会日本訪問団への講演(於京都大学)
- ・パラオにおける自動車解体と金属スクラップ輸出 - 海上輸送費がボトルネック -  
2019年11月 京都大学東アジア経済研究センター アジア自動車シンポジウム(於京都大学)
- ・自動車産業における部品国産化ライフサイクル  
2018年11月 国際ビジネス研究学会第26回全国大会自由論題(於立命館大学茨木キャンパス)
- ・太平洋島嶼国における放置車両問題の解決のために  
2019年11月 東アジア経営学会国際連合日本支部理事会(於明治大学)
- ・自動車産業における部品国産化ライフサイクル  
2019年12月 産業学会西部部会(於九州大学西新プラザキャンパス)
- ・自動車産業における部品国産化ライフサイクル  
2018年12月 日本自動車部品工業会関西支部(於京都市)
- ・電気自動車比率世界一ノルウェーの国家戦略 - 電気自動車生産台数世界一中国との比較 -  
2020年1月 京都大学経済学部同窓会東京支部経済交流会(於学士会館)
- ・太平洋島嶼国の放置車両問題をいかに解決するか  
2020年8月 鹿児島商工会議所 製造・整備・エネルギー部会(於鹿児島市)
- ・南の島の放置車両問題をいかに解決するか  
2020年11月 鹿児島県立短期大学奄美サテライト講座(於奄美市及び瀬戸内町)
- ・南の島の放置車両問題をいかに解決するか  
2021年1月 鹿児島国際大学経済学会(於鹿児島国際大学)
- ・太平洋の南の島における環境問題 - 放置車両問題から考える -  
2022年1月 JICA九州講演会(於鹿児島市)
- ・アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考える 日系自動車メーカーを中心に  
2022年1月 アセアン共同体研究会(於同志社大学)(ZOOM報告)
- ・太平洋島嶼国における放置車両問題 - 放置の原因と解決策 -  
2022年4月 アジア経営学会西部部会(於流通科学大学)
- ・太平洋島嶼国における放置車両問題 - 放置の原因と解決策 -  
2022年4月 関西大学サステナブル流通研究会(於関西大学梅田キャンパス)

総じて研究の成果としては、太平洋島嶼国車両放置問題の解決策について明確な基本的方向と具体的な提案を行なったことである。その基本的方向は、自動車リサイクル困難国に対してリサイクルの自立的完結を求めるとをしないで、島嶼国に対して自動車を輸出した国(政府)と輸出会社が持ち込み責任をとるという観点から国際協力/支援の一環として島嶼国の自動車リサイクル事業の国際分業を構築することである。すなわちその国では自動車リサイクルが困難であることを知りながら、あえてその国に自動車を持ち込んだ者は、持ち込み責任を果たすべきであり、島嶼国における自動車リサイクルへの協力/支援、あるいはリサイクルのプロセスの一部を自国で行なうべきであるという考え方である。具体策としては、日本から島嶼国に自動車を輸出した企業に対しては、車両輸出時にリサイクル預託金を還付しないで、その資金を島嶼国に援助し、困難国でのリサイクルを支援する方策、日本の自動車リサイクル促進センターが保有している特定再資源化預託金の一部を島嶼国のリサイクル事業にまわす方策、島嶼国で発生した鉄スクラップ等を自国に持ち帰り、電炉や精錬炉で鉄や銅、アルミニウム等を再生する方策、等々を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 塩地洋, 李在鎬等	4. 巻 28号
2. 論文標題 太中国電動用2次電池のバリューチェーンにおける企業間関係 日系及び中国企業の実地調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア経営研究	6. 最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩地洋	4. 巻 -
2. 論文標題 ASEAN統合の進展と日系自動車企業の生産拠点再編	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 前田啓一他編著 ASEANにおける日系企業のダイナミクス	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩地洋	4. 巻 -
2. 論文標題 序章 本書の問題意識 自動車産業政策からの類型から見たASEAN各国の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 前田啓一他編著 ASEANにおける日系企業のダイナミクス	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 太平洋島嶼国における放置車両問題 - 放置の原因と解決策 -
3. 学会等名 アジア経営学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 南の島の放置車両問題をいかに解決するか
3. 学会等名 鹿児島国際大学経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考える
3. 学会等名 アセアン共同体研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 太平洋島嶼国における放置車両問題の解決のために
3. 学会等名 多国籍企業学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 パラオにおける自動車解体と金属スクラップ輸出 - 放置車両問題の解決のために -
3. 学会等名 日本流通学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 太平洋島嶼国の放置車両問題 - フィジー, トンガ, サモアの調査から -
3. 学会等名 日本経営学会全国大会自由論題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 1970年代～2000代のトヨタ自動車の中国事業 - 元トヨタ自動車中国事務所総代表服部悦雄氏口述記録に基づく分析 -
3. 学会等名 経営史学会全国大会自由論題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩地洋
2. 発表標題 自動車産業における部品国産化ライフサイクル
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Hoa Van Thi Tran, Hiromi Shioji, Huong Lan Thi Le, Takabumi Hayashi	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 637
3. 書名 Knowledge Transformation and Innovation in Global Society	

1. 著者名 Hiromi Shioji, Dev Raj Adhikari, Fumio Yoshino, Takabumi Hayashi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 340
3. 書名 Management for Sustainable and Inclusive Development in a Transforming Asia	

1. 著者名 前田啓一 塩地洋 上田曜子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋侯書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 ASEANにおける日系企業のダイナミクス	

1. 著者名 塩地洋・田中彰 編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 284
3. 書名 東アジア優位産業 - 多元化する国際生産ネットワーク -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 The 15th International Conference of International Federation of East Asian Management Associations	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------